

指導計画の作成と内容の取扱い ～①～ （小学校特別活動）

〔学級活動〕などにおいて、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること。

これは、児童が〔学級活動〕などの集団活動を通して自己を見つめ、自己のよさや可能性などを発見し、目標や希望をもって自らの将来についての自己の生き方や現在の生活の在り方などについて考えることができるように工夫しましょうということです。

学級活動においては、児童が自らの生活や現在及び将来に夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする意欲や態度を育てるようにすることが大切です。そのためには、例えば、日常生活や学習について、目標をもって取り組めるような指導をしたり、よりよい学級や学校の生活づくりのために、自分の役割や責任を果たしたり、友達と仲良く係活動や当番活動に取り組んだりすることができるようにする指導を重視することなどが考えられます。

児童会活動においては、児童が自分の役割や責任を自覚して取り組み、役に立つ喜びを味わうように工夫するなど、様々な役割や立場を実践的に学ぶ場としていくことが大切です。

クラブ活動においては、児童が異年齢の人間関係の中で、自己の興味・関心を追求することによって活動意欲を高め、自己のよさや可能性を発見する場となるよう工夫することが大切です。

学校行事においては、児童が事前にねらいや体験活動の意義を十分に理解し、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後に感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り、児童が自己の生き方についての考えを深められるように工夫することが大切です。

指導に当たっては、特に入学時や学年始め・学期始めや学年末・学期末における学校生活への適応に関する指導、卒業時の中学校進学に向けての指導等において、児童の不安を解消し、発達の段階に応じて児童が希望や目標をもち、当面の生活や学習及び将来の生き方について考え、自己を生きかそうとする生活態度を育てるような指導を工夫していく必要があります。また、道徳の時間などとの関連を図りながら、学年や学期を考慮して効果的な指導ができるようにすることも大切です。

（※ 小学校学習指導要領解説特別活動編を参考にしています。）



今回は、中学校の第3指導計画の作成と内容の取り扱い1(2)『生徒指導の機能を十分に生かすとともに、教育相談（進路相談を含む。）についても、生徒の家庭との連絡を密にし、適切に実施できるようにすること。』について考えてみます。なお、今回予定していた内容は努力事項で解説済みでしたので、予定を変更しました。

今回は、12月6日（金）頃アップの予定です。